

令和7年度 佐久市総合計画審議会第2部会（第3回） 議事録

日時：令和7年8月19日（火）

午後2時～3時45分

場所：佐久市役所 602会議室

【出席者】阿部部会長、中澤副部会長、滝沢委員、渡辺委員、井出委員
二村委員、伊藤（康）委員、木内委員、飯沼委員、伊藤（明）委員

【事務局】市村企画課長、小林企画調整係長、鷺見主任、中澤主任

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（川崎委員）

2 議事

- （1）第二次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理について
（第3章 経済・産業分野）

質疑、意見

部会長	第2部会では、「第二次佐久市総合計画後期基本計画」の第2章の「都市基盤分野」と、第3章の「経済・産業分野」について審議を行い、本日は第3章について御審議いただく。
事務局	「農業」について説明
部会長	質問、意見等あるか。
委員	米が非常に高い。担い手の問題もあるが、減反政策に絡んで荒廃してしまっている状況をどうするかについて、地元では生産者を中心に真剣に考えている。政府でも方向性が変わったようだが、そういったことに敏感になる必要があるのではないか。
事務局	米が品薄の中で、ふるさと納税でも返礼品として伸びている。政府としても以前の生産調整から拡大に舵を切る中で、次の計画では、基幹産業の農業の中の水稻をどうしていくかについて、施策として入れていかないといけない重要な問題だと捉えている。

委員	空き家を処分したいところに農地がついてくると、拒まれてしまうことが多い。残ってしまう農地をどうしたらよいのか真剣に考えていかないといけない。例えば、大規模農家に担い手をお願いするとか、農地の再生に対する補助など、荒れた農地を活用するための手立てを考えていく必要があると思う。
委員	米の値段が今は高くなっているが、それまではとても安く、農業を専門で暮らしていける感じは全くなかった。担い手の減少ということからすると、いかに生産されたお米が高く、生活できるような値段になっていくかが非常に重要だと思う。 先ほど、ふるさと納税の返礼品の話があったが、市として農家からいくらで買い上げているのか。
事務局	ふるさと納税は、市が買い上げるのではなく、農家さんに出品いただくシステムになっており、自分で値段を決められる。
委員	農業や商業の商店街の後継者不足、事業承継も、根本的には儲からないことが問題。 農業の販路として、ふるさと納税も1つ考えられ、こういう販路があることを伝えるのは行政の役割ではないか。もちろん自助努力であるが、そういう情報を農家に与えてあげると販路拡大のチャンスが広がり、自分の農作物にも磨きがかかってくると思う。 また、高齢で難しいところは、農業法人として一緒にやっていくことも1つだと思う。
事務局	ふるさと納税も販路拡大の1つの手段であり、4月からまちづくり会社に集落支援員を雇って、ふるさと納税など、販路拡大、出品者の確保を行っていただいているので、その方たちと連携し市としてもしっかりと取り組んでいきたい。
事務局	「林業」について説明
部会長	質問、意見等あるか。
委員	森林環境譲与税はどのようなものか。

事務局	森林環境譲与税は、市町村における森林整備の財源として、国から交付されている。この譲与税を使って、民有林の整備について、市が委託を受け、森林整備等を行っていかうとするもの。
委員	私の地域で(有)須江林産が民有林を無料で伐採して、そこにカラマツを植えてくれているが、これもそこから出ているのか。
事務局	(有)須江林産の会社独自の取組で、森林環境譲与税は使用されていない。
委員	大規模に伐採を行っているので、例えば大雨が降った際、災害につながらないか。災害を未然に防ぐ意味で森林の役割もあると思うので、ある程度開発を行う時は市への報告義務などが必要であると思う。
委員	財産区で管理している森林も多くあると思うが、先ほどの森林環境譲与税の関係も共有しているということで良いか。
事務局	財産区については、財産区の予算の中で実施してもらっており、森林環境譲与税の共有はしていない。
事務局	「水産業」について説明
部会長	質問、意見等あるか。
委員	鮎を養殖されている方から、鳥による被害が増えてきていると聞いた。近隣市町村とも協力しながら駆除を考えていかないといけないと思う。
事務局	鮎については、地域の食文化として捉えている。現在、生産が減っている中で増やすための施策は講じているが、鮎を食べてしまう鳥類の駆除には今のところ至っていない状況である。 県も含め、どんな方策が取れるか所管課で検討するよう伝える。

委員	東京や関西から買いに来るくらい、佐久鯉を超えるくらい需要があるのに、なぜ広がっていかないのか。
事務局	手間に比べて収入が見合わないことが考えられる。補助金を創設してなんとか生産量を増やしてもらう施策を講じている状況。
委員	生産が絶えてしまうと鮎や佐久鯉のブランドも消えてしまうので、支援を強力に進めてもらいたい。
事務局	「商業・サービス業」について説明
部会長	質問、意見等あるか。
委員	商業・サービス業の課題の中で、「人口の減少傾向が続いていることから、市内外から多くの人を呼び込むことができる商業・サービス業の振興を図る必要がある。」とあるが、大型店の出店が人口の減少を食い止めることにはならないと思う。買い物客を他市から呼ぶことはできるかもしれないが、定住人口を増やすことにはつながらない。例えば、小諸市は、大型店はないが、空き店舗対策を徹底的に実施し、70 店近くの新しいお店が入ったことを聞いていて、抜本的に人口減少を食い止めることにはならないかもしれないが、少なくとも定住人口を増やしていることにはなっている。
事務局	市として、人口減少に歯止めをかけることは実施していかないといけないと思うが、商業・サービスの集積によってこれを食い止められるかと言ったら正しくない。小諸市で実施していることも存じているが、小諸市は最近社会増となっていない。佐久市は、令和 6 年の社会増が長野県で一番となり、その要因については現在分析しているところ。 商工団体連絡協議会から要望をいただいているが、いかに地域の商店街を活性化させていくか、大きな課題として捉えている。今年度から望月で創業支援のための施策の元となる空き店舗の調査が始まっていて、これから浅科、臼田を実施していく予定である。地元の商店街にしっかり目を向けることが、人口減少に歯止めをかける一助になると考えており、そういった意味での記載

委員	となっている。大型店を連れてくることで人口減少に歯止めをかけることではないことをご理解いただきたい。 商店街が尻つぼみになっているのは、少なくとも野沢商店街は大型店の影響がある。それは事実として、商店街を活性化したら人口が増えるかといったら違うかもしれないが、街の賑わいにはつながると思う。 教育機関の新設や工業団地での企業誘致で非常に効果があると思うが、商業においては成功していない状況を認識していただき、新しい戦略を立てた方がよいと思う。
事務局	しっかり精査し、実態にあった課題を捉えていきたい。
委員	商店街を活性化することは非常に重要だと思う。 コロナの時に市から商品券を購入して市内で買い物をしたが、物価高対策として再度実施するのはどうか。
事務局	コロナの時は消費が相当冷え込む中で景気対策として、国から特別な交付金がきて、プレミアムをつけて商品券を販売した。コロナが一定程度終息する中で、物価高に対して先般、商工団体連絡協議会から消費喚起策の要望が出ており、今年の11月から電子決済にポイントを2割つける形でスタートできるように進めているところ。 国の方針でキャッシュレスを推進していく流れになっている中で、デジタルに弱い人たちに対してもサポートする体制は整え消費喚起を行う予定であるのでご理解いただきたい。
委員	キャッシュレスに対応できない人が一番困っていると思う。実施にあたり、工夫して助けていただけるとありがたい。
委員	免許返納後のことを考え、活性化できるような方法を考えていただきたい。
委員	いざといった時に気軽に行ける環境づくりが必要。商業を営む事業主から真剣に意見を聞く必要がある。活性化の起爆剤になるようなことを考えていただきたい。

事務局	免許返納された方に、市からデマンドワゴンさくっとのチケットを1万円分渡している。ただ、地元の商店街など歩いていける場所にお店があるような環境が必要で、積極的な取組を行っているのが岩村田商店街のおかず市場だと思っている。 こうした施設が出てくるために、市としてどんなことを支援すれば考えていかなければならない。
委員	移動販売車に対し、市から補助は出ているか。
事務局	出していない。
委員	近くにスーパーがあっても、そういうものを利用している方がいる。お年寄りも、歩いて行ける場所で買いたいと思っている。そういった活動が活発になるような補助など、市からしていただきたい。
委員	アンケートの満足度指数で意外だと思ったのが、目標をすでに達し、満足しているという結果であった。大型店が多く、非常に便利だという意味で、一般の家庭であれば満足度が高いと思う。この利便性が高いのが佐久市の大きな特徴だと思う。 一方で商店街の魅力を引き出し、商店街が移住や定住の核となるのではないかとといった視点で施策を構築していくと非常に可能性のある分野になるのではないかと思うので、ぜひ新たな取り組みを進めてもらいたい。 水産業は非常におもしろいと思う。長野県の総合計画を作る中で、農業、林業や商業などは柱が立つが、水産業が立つのはおそらく長野県内でも佐久市くらいではないかと気がしている。これは商業でもあり、観光にも結びつく、非常に大きな柱にもなりえる佐久市の特徴をすごく表している。佐久市らしい計画になる可能性があり、非常に貴重な施策をやっているのだから、伸ばしていただければすごくいいと思う。
委員	商店街が昔あったから再生するということはなかなか難しい。そこに人が住み着いて、住みやすいなとなつて初めてお店が並行してできてくる。エリアごとに身の丈にあった商業で、歩いて買い物に行ける店だけで十分という生活として、それぞれの特徴を

	は選択の余地があると思う。 中身の話で言うと、グローバル化の進展の中で、全国的に外国人の方に来てもらって、観光が成り立っていることもあるので、インバウンドの要素も入れていただきたい。 前段の大目標と個々の施策のところに若干乖離が見られる気がするので、次期計画では工夫が必要だと思う。
委員	今まであるものをPRして観光に来てもらう発想ではなく、発想を全く変えて、新たな取組に方向転換していった方がよい。
委員	小諸もそろそろ補助金が切れて、地元の方に聞くとそんなにお客さんも入っていないくて、いつまで続くのかなと言っていた。補助金ありきで始めるものは続いていかない。 教育移住で、佐久穂の大日向小学校に来る方がすごく多いが、そこにしかないものがあると目を引くと思うので、何かしら違う切り口で考えてみることも1つだと思う。
委員	佐久市に五稜郭があることを知らなかった。佐久市は鯉のイメージがあるが、そのくらいしか正直ない。 もしかすると観光の強みも弱みもうまく把握できていないのかもしれないし、場合によっては観光ではなく、教育の方面でいった方が強みを活かせるのかもしれないので、整理をしっかりと行う必要がある。
委員	先月、五郎兵衛新田を歩く会があったが、水田の歴史を知る機会になった。観光施設ではないが、実は観光資源としての可能性を感じた。
委員	観光名所等がなければ、自分たちで作らなければいけないと昔聞いたことを思い出した。
事務局	「工業」について説明
部会長	質問、意見等あるか。
委員	産業支援センターが挙げてくる事業に対して、例えば新技術な

	ど全国や海外の情報をいち早く市内の事業主への展開など、支援を細かく事業ごとに行っていくしかない。市の職員が産業支援センターに出向することも必要ではないか。
委員	工業団地ということで、臼田も完結し、今後はどのような動きになるのか。
事務局	昨年、市内企業 100 社にアンケート調査を実施。産業用地を必要としている、市内で拡大したいというものづくり会社はかなりあった。今後、令和 7 年度中に、市としてやるのか民間がやるのか、場所どうするのかを含めて、庁内で調整している。まとめた計画、アンケート調査も含めて所管課と調整させていただく。
事務局	「就労・雇用」について説明
部会長	質問、意見等あるか。
委員	満足度指数が 2.88 と一番低く、重要度指数が 4.43 と高くなっており、非常にギャップのある施策だと思う。 今の若者や雇用で困っている方たちがどんな状況か分からないが、スポットワークの株式会社タイミーと連携事業を組んで、状況把握をしようとしているのか。
事務局	どの事業所においても、労働力不足や人手不足が深刻な課題だと思っている。タイミーとの連携協定については、学生が困っているかどうかを推し測ろうとするものではない。あくまで一度離れた学生が地元の企業と関わるためにタイミーのシステムを利用する中で、有償のインターンシップを行っていただく、人手不足に対して隙間時間にバイトできる形を取るために連携協定を結んだ。
委員	働けるのに働かない人たちがなぜ働かないのか原因を掴んでおかないと対策しようがない。これだけ数値にギャップがあることは、悩んでいる人たちが多いのではないかと思う。そこら辺の意識調査をしておく対策が取れると思う。

委員	就労、人手不足について、それを補完しているのが、シルバー人材センターである。今まで通り働き手を探すのは難しいところもある中で、うまく活用するのも1つだと思う。
事務局	人手不足を解消するのに、潜在的労働人口、例えばシルバーの活用も重要だと思っている。出産や結婚で一度職を離れた女性をもう1回社会に出て働いてもらうことや、18歳で一度出た学生に市内で働いてもらうかも重要で、そこを分析、活用する中で少しでも人手不足が解消できるよう、タイミーとの連携協定やインターンシップで学生に関わってもらう施策を講じている。シルバー人材センターの活用も非常に重要だと思うので、理事長含め、お話しさせていただく。
部会長	全体として何か言い残したことはあるか。
委員	最近、市役所の方と付き合うと、思っている以上に市役所の方はポテンシャルが高く、質が高いと思う。課題が明確だと達成していただける。ただ、ここにある課題を見ていると課題の見つめ方が少しずれていると思うこともある。例えば、佐久の冬は寒いから移住したいといった人や、何もないから星空がきれいといった着目点は住んでいる人では分からない。やはり分析などはプロの力が必要だと思うので、司令塔のことも含め、うまく活用できるようにしていただきたい。

(2) その他

部会長	その他について、事務局から何かあるか。
事務局	今回の開催は、9月12日（金）午後1時30分から、佐久市役所8階大会議室が会場となり、全体会での審議を予定している。 別件として、本日委員の皆様には市民ワークショップのチラシを配布しており、次期総合計画策定に向け、市民参加型のワークショップを開催予定である。 テーマを3つに分け、参加者同士でアイデアを出し合っていたき、次期総合計画の検討材料としていきたいので、委員の皆様にはワークショップの周知に御協力いただきたい。

部会長	全体を通して何かあるか。 ないようなので、以上で本日の全ての審議を終了とする。
-----	---

3 閉会